

ともしび通信

発行：NPO法人没イ手の会・京都



みんなが歌おう!

夏空の下、ひまわりの花が 元気に咲いています

東京にて パート3



洋子のお兄さんが、洋子を迎えに来る日がやってきました。その朝窓の下の神田川のせせらぎを聞きながら目が覚め、いよいよ今日だ！と覚悟を決めて朝食に向かいました。洋子が作る最後の朝ご飯、私の好物の納豆と目玉焼きに味噌汁、私は黙ってそれを食べ、「行ってくる」と洋子に声をかけ、返事を聞かずに急いで出かけました。顔を見るのも、声を聞くのもつらくて、真っ直ぐ会社に向かいました。

会社で朝礼が済んだらいつもなら誰かと2人で飛び込みに行くのですが、「私用事があるので急いで出かけます」と言って新宿の喫茶店に入り、ただぼやーとしていました。今頃洋子はもうどこかへ行ってしまったか。荷物の整理をしてお兄さんを待っているのか？そんな事を考えて喫茶店で時間を潰し昼前にそこを出て、どこも行く宛もなく新宿の街を歩いていました。昼食を食べ、また喫茶店に入りとその日は仕事をする気になれず一日中洋子のことを思っていました。夕方会社に帰りてならぬ日報を書き、帰宅したのが6時過ぎ、夕闇が私の部屋を暗くしていました。洋子は出かけたのだと当たり前のことを当たり前と受け止められず、部屋の電気をつけたら食卓に鱈の干物と味噌汁が出来ていて「味噌汁を温めて食べて下さい。ごめんなさい・弘さんへ」と洋子の手紙が置いてありました。

私は涙がこみ上げてくるのを我慢して台所に味噌汁を温めに行きました。誰かに涙を見られないかと心配しながら、早く出れないかと。夕食は今までに味わったことのない寂しいものでした。今頃洋子は汽車の中、まだ山形についていないなあ、迎えに行こうか、いやそれは出来ない、自分が悪くてこうなったのだから洋子の幸せを考えてやろう、いや、でも・・・と考えがグルグル回っていました。

4年間の結婚生活でした。私にとってはとても充実した楽しい生活でした。しかし、洋子にとっては苦しい4年間だったのかもしれない。片方からの見方だけではわからないことが多いのかも、特に男と女の他人同士の生活、私にとっては良くても洋子にとっては苦痛であったかも、そんな事もわからず、伴侶の気持ちにも気づかず私はつくづくかたわ者

だと自分を攻める3畳一間の部屋での自分でした。私は今で言うバツイチになってしまいました。

2ヶ月が過ぎました。27歳になりました。私は会社では係長に昇進し、組合の幹部に抜擢され、会社の経営陣と団体交渉をする役までおおせつかっていいました。大した成績も残していないのにです。しかしその事が会社の人事や、経営状態等勉強することが多く、大いに私の後の人生にとってプラスになったことは間違いありません。

職場も二子玉川に移りましたので、私は大岡山に引っ越すことになりました。山崎くんが小田原から大岡山のバーに来ていました。たし、私の職場からも車で10分ほどです。そこにアパートを探して4畳半ですが引っ越しました。大岡山は大田区にあり、目蒲線という目黒と蒲田を結んでいるJR線上にあり自由が丘の隣の駅です。東京工業大学(東工大)のありとところで、静かな学生と住宅地です。

そこから私の乱れた生活が始まるうとしているなんて、当時の私には気がついていませんでした。

仕事は相変わらずトヨタ車の販売ですが、私は4人の部下を持たされていきましたので、そのものたちの面倒も見ながらの自分の販売成績も大切でした。まあ私は一定の固定客も出ていましたので、月に5〜6台位は売っていましたので、一応係長としての面目は立っていました。(コンテストになると私は不思議と20台ぐらい売り東京でNO1になったことも)

毎日の生活は仕事が終われば山崎くんのバーに入り浸りで、酒は飲む、タバコも吸う、女性は山崎くんのバーにいる女は手を

付けたらいかんと言われているので、他で？

部下たちとよく五反田のキャバレーに行きましたね。私はお酒は元来弱い方なので、あまり深酒はしない方でしたが、女性とキャバレーでダンスをするのは昔とった杵柄で、得意としてそこで誘って、後はどうなるかはご想像におまかせするとして、なにせ独身ですから、洋子との事の傷も癒えていませんでしたが、遊び回っていましたね。

麻雀を覚えて毎週山崎くんのバーにて、徹夜麻雀をしたり、とにかく目的のないその場限りの乱れた生活をしていました。そんな生活がガラリと変わる出来事が起きるのですが、それは次回で……

籠谷弘

「会員 趣味のホームページ」より その8

「ひまわり畑」

「ひまわり俳句」 山口佳寿子

音もなく花びらが舞う星月夜

紫陽花も雨にうたれて青しぐれ

木々ゆれる 子らの歓声砂けむり

「ひまわり短歌」 光木和子

ぱったりと出会ったことに戸惑いて別れたあとに嬉しさ追いつく

頭より大きな口開け一斉に四羽のツバメは競いて親呼ぶ

友の家初めて燕の雛かえるスクスク育てよだが飛び立つな

喧騒に飲まれワクチン一度目の接種終えふと途上国想う

「ひまわり俳句II」 菅沼清子

ワクチンの帰り青梅地に転び

清白(せいはいく)に咲いてどくだみ名の不思議

仏前のため息ひとつ梅雨の朝

新茶届きあの世とこの世一服

し

「白ばら園」 奥村文代

感謝して祈る心のまなざしが私の道をほのかに照らす

今は亡き夫の愛した町に来て湯に面影を追うも悲しき

「コスモス短歌」 石田楨子

あちこちで明るくはずむ子らの声 夏思わせる梅雨中休みの

刻々と日ぐれし空のうつりゆく虹をとかした幸せの色

誕生日孫へのメール久しぶり元氣な返信成長嬉し

ワクチンの予約予約とあくせくし 五輪株にならないうちに

ワクチンを二回済ませし友は今ひとつ山こえ宿題終えし

「あじさい川柳」 藤本花枝

菜の花や今がよけりやそれで

いい

生き永らえて見ればやつぱり丸もうけ

言うべきをまたまた飲んでしまったの

ながい自肅だるまさんにもなりそうよ

「チューリップ畑」 宮川敬子

久方の 降り積もる雪 立春過ぎに

悠久の 金沢金箔 輝きて

北陸の 寒さ受けたる 生きる知恵

歌声喫茶 8月の予定

「西院」(第2、4木曜日)

8月12日、26日

「洛西」(第1、3木曜日)

8月5日、19日

楽々亭第11回7月の予定

7月20日(火)

西京区役所洛西支所会議室

午前10時~12時

ともしび通信

発行元: NPO 法人没イチの会・京都

住所: 京都市西京区大原野東境谷町1丁目1番地4-701

TEL: 075-874-5320 FAX: 075-874-5328

MAIL: kago@botuichi.com

●ともしび通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい思いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。